

AEGIS-Women イベントご報告（MasterClass for AEGIS-Women）

2025年9月6-7日、メドトロニックイノベーションセンター（神奈川県川崎市）において、コヴィディエンジャパン株式会社とAEGIS-Womenの共催、日本内視鏡外科学会の後援により、第5回 MasterClass for AEGIS-Women（手術手技セミナー）を開催しました。全国から30名の参加者とお子さん18名が集まりました。

1日目には、まず大阪医科大学の李先生に、「AEGIS-Womenに求めるもの」というタイトルでご講演いただきました。続いて、金沢大学の稻木先生に腹腔鏡下胃切除術の手技のポイントについて、関西医科大学の渡邊先生に腹腔鏡下S状結腸切除術に必要な解剖学的事項を、九州大学の伊藤先生に肝切除術の歴史と低侵襲肝切除術について講義をしていただきました。

1日目の最後には、及川先生にご指導いただき、女性外科医の未来を考えるグループワークを行いました。働く女性が抱える問題や課題について議論し、その解決と女性外科医の活躍に向けた道筋を見つける大きな助けを得ることができました。その後、隣接するホテルで子どもたちも交えて情報交換会を開催しました。医学のことも日常のことも、大いに議論が深まる夜となりました。

2日目は、伊藤先生に肝臓手術、近畿大学の川村先生に大腸手術、稻木先生に胃手術について解説いただき、引き続いて手術トレーニングを行いました。このセミナーには託児サービスを併設しており、さらに2日目には小中学生の希望者を対象に、腹腔鏡手術を体験する MasterClass for kids & teens を開催しています。子どもたちの修了式は、大人の修了式と一緒に行われるのが慣例となっていて、子どもを含めた参加者全員が温かい雰囲気に包まれ、今年のセミナーは終了しました。



稻木先生



李先生



伊藤先生



川村先生



ご指導いただいた講師の先生方

伊藤 心二先生 九州大学病院

稻木 紀幸先生 金沢大学附属病院

川村 純一郎先生 近畿大学病院

李 相雄先生 大阪医科大学病院

渡邊 純先生 関西医科大学附属病院

及川 美紀先生 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ理事

MasterClass for kids & teens のご報告

岡山中央病院 外科 窪田 寿子先生 (AEGIS-Women 運営委員)

MasterClass for AEGIS-Women では、育児中の医師が安心して研修に臨めるよう、託児サービスを提供しています。さらにセミナー2日目には、小中学生を対象とした「腹腔鏡体験キッズセミナー」を併設しています。その内容についてご報告いたします。

当日は小学生10名が参加しました。はじめに「外科医のお仕事とがん」というミニレクチャーを行いました。各臓器の説明が始まると、子ども達は「それは食道！」「次は胃だよ！」と積極的に答えながら熱心に耳を傾けていました。続いて、メドトロニック社からご提供いただいた自動縫合器や吻合器を使い、消化管モデルで縫合・吻合を体験しました。

メインプログラムは腹腔鏡操作体験です。手術用ガウンと帽子を身につけ外科医さながらの姿に変身し、胃のイラストの上に置いたビーズをリンパ節に見立てて鉗子で回収する「ビーズ郭清」にタイムトライアル形式でチャレンジしました。最初は戸惑いながらも工夫を重ね、コツをつかむと集中して取り組む姿がとても印象的でした。さらに希望者は、ブロックで積んだ塔に輪ゴムを引っかけるゲームも行い、子ども達は創意工夫しながら楽しんでいました。

修了式では、河野会長より一人ひとりに修了証とセミナー中の写真が授与されました。また、高学年・低学年それぞれで、タイムトライアルの好成績者や著しく上達した子どもにメダルが贈られました。終了後のアンケートでは、参加した全員が「次回も参加したい」と回答してくれました。

本セミナーは、子ども達に外科の仕事を身近に感じてもらうと同時に、親子の新たなコミュニケーションのきっかけにもなることを期待しています。



参加された先生方にご寄稿いただきました。

「MasterClass for AEGIS-Women に参加して」

札幌厚生病院 研修医 澤田 芽緒音先生

この度、医局の先輩の先生にお声がけいただき、初めて MasterClass for AEGIS-Women に参加いたしました。まだ初期研修1年目で執刀経験もほとんどないため不安もありましたが、今だからこそ吸収できることがあるはずと思い、楽しみに当日を迎えました。

1日目の座学では、外科医としてのキャリアや手術手技に関する基本的かつ実践的なお話を伺いました。中でも手術器具の安定した持ち方、面を意識した手術操作や組織に適切なテンションをかけることの重要性など、普段の研修ではなかなか言語化して学ぶ機会の少ない内容が印象に残りました。各領域の解剖などについても講義があり、現時点ではすべてを理解できただけではありませんが、将来の自分のためにと思い、必死にメモを取りながら聞き入りました。

また及川美紀先生のグループワークでは、先生ご自身の体験をもとに、女性が働く上でのリアルな課題をお話しくださり、同じグループの先生方と女性医師ならではの問題やその解決策を話し合いました。懇親会では、全国の消化器外科の先生方と直接お話しすることができ、女



性外科医の先輩方の働き方や悩みについて生の声を聞けたことはとても貴重な経験でした。

2日目は腹腔鏡下大腸切除のグループに入り、手術トレーニングを体験しました。1日目に学んだことを思い出しながら手術操作に取り組みましたが、実際にやってみると器具の持ち方ひとつをとっても難しく、苦労しました。講師の先生や同じグループの先生方が未経験の私にも優しく声をかけ、手術操作の機会を与えてくださったおかげで、大きな学びを得ることができました。

今回の MasterClass を通して、自分の未熟さを実感すると同時に、外科医という仕事の奥深さや面白さにも改めて魅了されました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

「MasterClass for AEGIS-Women に参加して」 たかお浜田医院 濱田 剛臣先生



「私、今年のサンタさんのプレゼントは腹腔鏡手術トレーニングキットにしようかな。」 MasterClass for AEGIS-Women は、託児室が併設され、子ども連れで参加できる手術手技セミナーです。文頭の言葉は、去年一緒に参加した長女が帰りの飛行機で放った一言です。もう少し子どもらしくメルヘンなプレゼントを期待していた(用意していた)私達には、激震が走りました。去年のセミナーがとても楽しかったようなので、それならばと去年に引き続き今年も親子共々参加しました。

私達夫婦は、2人とも消化器外科医であり、私は肝胆膵外科、妻は下部消化管外科を中心に診療をしています。お互い後輩の指導および学生のリクルートをする立場のため、1日目のグループワークや懇親会などにおいて、リアルな女性外科医の考え方、各施設の働き方改革や支援の取り組み、そして課題について様々な意見交換ができ、大変有意義な時間でした。

2日目は、親が手術トレーニング、子どもたちにはキッズセミナーが用意されています。子どもたちのことを心配せずに手術に向き合える機会はなかなかないことなので、非常に良い企画だと思います。妻は手術トレーニングに参加し、私はキッズセミナーのお手伝いをさせていただきました。

子どもたちは、運営の先生方が準備された講義を受け、ドライボックスでのビーズ郭清などに挑戦しました。講義では自動縫合器や吻合器の実演もあり、大盛り上がりでした。胃のイラストの上においてビーズをカップに移動させるタイムトライアルでは、悪戦苦闘しながらも、一生懸命、楽しそうに取り組んでいました。「これは、あのセリフが出て来るわけだ」と思いながら、私自身も、我が子が目をキラキラとさせ、真剣に取り組む姿を見ることができ、とても幸せでした。

今年10月、憲政史上初の女性総理が誕生しました。我々消化器外科医を取り巻く環境を考えると、性別の枠を越えた何らかの方策が必要であり、そのためにはまず互いを知ることが最も大事だと考えます。来年以降、女性消化器外科医に限らず、男性消化器外科医の方々も是非セミナーへの参加をご検討ください。

最後に、このような貴重な機会を提供くださいました AEGIS-Women 事務局はじめ関係各位の方々、開催担当運営委員の先生方、講師の先生方に心より感謝いたします。



編集：窪田寿子、本藤奈緒、松永理絵、大越香江